

パパにインタビュー

パパ: 内山 利貴さん 34 歳

(新潟岡本硝子株式会社 事業統括部設備課)

お子さん: 長男(取材当時 6か月)

育休の取得期間: 生まれてから 11 日間 +

里帰り出産から自宅に戻るとき 8 日間

取材日: R7(2025)年1月 28 日



⑤ 育休を取ろうと思ったきっかけを教えてください

出産に際して、「育休を取れるなら取ってほしい」という妻の希望がありました。また、産院は長岡市内だったので、出産となったらすぐに対応できるようにしたいと思っていました。おかげで、無事、出産に立ち会うことができました。そのほかには、妻は出産後、実家に帰ることになっていましたが、初めての出産でしたので、できるだけ会いに行って不安な気持ちを少しでも和らげてあげたいという思いもありました。

また、育児休業について調べる中で、男性が育休を取ると市から奨励金が交付されるということが分かり、それも取得の後押しになりました。

⑥ 分割で取得された理由を教えてください

出産時から続けて休みたい気持ちはありましたが、外せない業務があったため、一旦職場復帰し、二回目は妻が実家から自宅に戻るタイミングで休ませてもらいました。

⑦ 育休を取ることを職場に伝えたときの反応はどうでしたか

課長からは「是非取得してください」と言われました。同僚も理解してくれましたし、取得しやすい職場環境で本当にありがたいと思いました。

⑧ 育休前に二人の家事や育児など役割分担について話し合いをしましたか

家事は普段から二人で分担したり助け合ったりしているので、育児を機に新たに話し合いをしたわけではありません。

妻は、つわりがひどく、出産近くまで辛そうでしたので、出産前も今も身の回りのことは全部自分でやるように心がけています。料理も日頃からやっており、妻も喜んで食べてくれています。子どもの入浴は、その日のタイミングによるため、妻が一人で入れることもあれば、私が間に合えば一緒に入るという感じです。



⑤ 夜はどのように過ごしていますか

子どもがぐずり始めたら妻と二人で起きて、子どもをあやす担当とミルクを作る担当に分かれて対応しています。

⑥ ママに対して思うことはありますか

陣痛から出産までの時間が長く、4400グラムと大きな赤ちゃんだったことで、母子ともに大変でした。出産に立ち合い、その様子を見ていましたので、妻には本当に感謝しています。

⑦ 育休中に大変だと思うことはありましたか

大きな負担を感じることはなかったです。



⑧ 育休を取って良かったと思うことは何でしょうか

新生児期の一瞬しかない大事な時間を子どもと過ごせたこと、その時間を妻と共有できたこと、それと、妻に寄り添えたことです。

⑨ パパが育休を取って、ママはどんなふうに思っていますか

直接聞いたことはないですが、取ってくれて良かったと思っているのではないかと感じています。

⑩ 仕事に戻るときに不安などはありましたか

事前の業務引継ぎもしていたので、特に不安はありませんでした。

⑪ 休職中は収入が減ってしましますが、不安はありませんでしたか

短期間だったため、大きな不安はありませんでした。雇用保険の育休給付金や市の男性育休取得奨励金は、後日の申請になるため、しばらくは自分の資金を使わなければいけないということは予め理解していました。

また、奨励金などの情報は自分で探さなければならぬということも分かりました。初めて出産される方は、夫婦でしっかり話し合うことをお勧めします。



- ③ 家事や育児は段取力が向上すると言われますが、育休中の経験が仕事でも役に立つ
と思うことはありますか

育休中の経験よりも、業務で在庫管理をしているので、そのことが育児用品の計画的な購入に役立っているかなと思っています。

- ④ 最後に、育休を取るか迷っていたり、うちの会社じゃ無理だな、と思ったりしている
方に向けて、メッセージをお願いします！

私は今回産後パパ育休を取ることができ、出産に立ち会うという貴重な経験をする
ことができました。また、産前産後の精神的に不安定と言われる時期に、側で妻を支え
ることができました。そのことは妻の安心につながったと思っています。

会社や同僚への遠慮もあり、ためらう方も多くいらっしゃると思いますが、「男性は仕
事」という社会のイメージも変化しています。男性育休に理解のある企業も多くなって
います。取りたいという気持ちがあるのなら、まずは上司、会社に相談してほしいと思
います。私も、もし第二子を授かったら、また取得したいと思っています。

出産の立ち会いは、人生において何度もない貴重な経験ですし、出産前後の不安な
時期に近くで支えてあげられることは産後うつなどを防ぐことにもつながります。
ぜひ、夫婦で支え合う育児休業の取得をお勧めします。

